

第 22 回「国際電力首脳会議」の概要について

2025 年 10 月 17 日
電 気 事 業 連 合 会

「国際電力首脳会議」は、電気事業連合会、米国エジソン電気協会、欧州電気事業者連盟の 3 団体およびカナダ・オーストラリアの事業者・業界団体の経営トップが各地域の電気事業を取り巻く状況や共通の課題等について、国際的な視点から幅広く意見交換することを目的として開催しているもので、今回の開催で 22 回目となります。

今回の会議では、同業界が目下直面している課題や新たに浮上りつつある課題について議論等を行い、各国の電気事業者共通の取り組みについて「国際電力首脳会議 共同声明」としてとりまとめました。

1. 日 程 2025 年 10 月 5 日（日）～ 7 日（火）
2. 場 所 日本・仙台
3. 参加者 〔日 本〕 電気事業連合会
 〔米 国〕 エジソン電気協会（EEI）
 〔欧 州〕 欧州電気事業者連盟（Eurelectric）
 〔カナダ〕 エレクトリシティ・カナダ（旧カナダ電気協会）
 〔豪 州〕 豪州エネルギー協議会、豪州エネルギーネットワーク協会

4. 概 要

	各セッションの内容
1	電気事業を取り巻く現状
2	電力需要増に応える供給設備、燃料等の確保
3	脱炭素化に向けた取り組み
4	エネルギー政策について
5	レジリエンス強化に向けた取り組み
6	技術イノベーションに向けた取り組み

（別紙） 2025 年 国際電力首脳会議 共同声明 10 月 7 日 仙台

2025 年 国際電力首脳会議 共同声明
10 月 7 日 仙台

オーストラリア、カナダ、米国、欧州、そして日本の電力業界のリーダーが仙台に集い、至近の地政学的情勢や世界のエネルギー環境を踏まえ、業界が直面するビジネス上の機会と課題について議論した。本会議では、地域や制度の違いを踏まえつつ、エネルギーの安定供給、安定的な価格水準、温室効果ガスの排出削減の同時実現に係る重要性を再認識するとともに、以下の通り電力業界が果たすべき責務と今後の道筋を共有した。

- バランスのとれた電源構成を構築するとともに、低炭素な供給力と電力システムの供給信頼性の確保を図ることにより、信頼性が高く安定的な価格で持続可能な電力へのアクセスをより多く求める顧客のニーズに対応する。このコミットメントは、産業・運輸・熱需要といった最終需要家の電化を支援するものであり、AI・データセンター・半導体工場等、新しい産業の成長を可能にする。
- 再生可能エネルギーや原子力発電の拡大・送電網の整備・デマンドレスポンス等の需要側対策・デジタル技術活用による電力システム高度化など確立した取り組みに加え、エネルギーの安定供給と温室効果ガスの排出削減を促進する新たな手段として、水素・アンモニア活用や長時間蓄電技術、CCS/CCUS といった多様な低炭素技術の開発・導入促進のための投資を拡大する。こうした取り組みはコストを要するため、これらの新規投資によって需要家が受ける利益について、官民一体となって国民理解の醸成を行うことが重要である。
- エネルギーを取り巻く環境が一層複雑化する中で、産業競争力の強化を図っていくためには、継続的な投資や持続可能で中長期的な成長を支えるための適切で予見可能な政策が不可欠である。地政学リスク拡大に対するエネルギー安全保障の取り組みを促進し、増加する電力需要に応え、温室効果ガスの排出削減を推進するため、市場メカニズムを活用しつつ、政策当局と連携し、安定的かつ持続可能な電力システムを促進する実効性ある政策立案を実現していくことが必要である。
- 気象条件に左右される再生可能エネルギー発電が増加し、一層複雑化する電力システムにおいて、電力の安定供給を確保する。これには、例えば発電と消費を一致させるための柔軟性確保策の構築、送配電網の強化、必要な系統サービスの確保、需給ひっ迫にも耐えうるような原子力や LNG といった燃料の調達、主要な設備における信頼性の高いサプライチェーン確保が含まれる。
- 異常気象や自然災害の頻発・激甚化、電力設備に対する物理的・サイバー攻撃の複雑化・巧妙化等により、エネルギーインフラを取り巻くリスクは一層多様化・複雑化している。こうした状況の下、私たちは、安定供給を揺るがし、重要な電力シス

テムへの脅威となるあらゆるリスクに備えることの重要性を再認識し、電力システム全体のレジリエンスを強化するための不断の取り組みを行っていく。

○設備建設許認可や工期の短縮、大規模送電網の強化、莫大な投資を促進するための環境整備について、官民一体となって効率的に取り組む。これは、我々に求められるスピードと規模で確実に供給力を整備するために不可欠なステップである。

○供給信頼性と温室効果ガスの排出削減の実現に向けて技術イノベーションの果たす役割は大きい。これらの技術の各地域の知見や強みを最大限に活かしながら、有望な革新的技術を大規模に導入するための研究開発を加速する。特に、これらの技術が経済的に成り立つことを確認した上で、持続可能なサプライチェーンの構築、そして未来を担う高度専門的な人材育成に向けて着実に取り組んでいく。また、電力産業と顧客において顕在化しつつあるニーズに奉仕できるよう、人材をひきつけ、育成し、定着するよう尽力する。

我々は、これらの行動により、信頼性の高いエネルギー供給体制を構築し、世界で生じつつある社会・経済の変化に対応していく。

以 上